

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	アジア文学論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0096		科目区分		一般 / 必修	
授業形態				単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		生産デザイン工学科（電気電子コース）		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		各授業で資料を配布する。					
担当教員		北原 沙友里,木本 拓哉					
到達目標							
アジアの文学に触れ、心情表現等の効果を読み取ることができる。 表現方法を学び、自らの心情を表現することができる。 作品の内容や背景を読み取ることができる。 作品に対する意見などを論理的な文章として書くことができる。 他者の意見を理解し、自分の意見を論理的に説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		さまざまな表現を学び、心情を自らの言葉で表現できる。		さまざまな表現を学び、心情を表現できる。		さまざまな表現を学び、心情を表現することができない。	
評価項目2		論理的な文章を組み立て、文章化できる。		論理的な文章をある程度組み立てることができる。		論理的な文章を組み立てることができない。	
評価項目3		他者の意見を理解し、自分の意見を論理的に説明できる。		他者の意見を理解し、自分の意見を述べることができる。		他者の意見を理解し、自分の意見を述べることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。 学習・教育到達度目標 E③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。							
教育方法等							
概要		1～3年生までの基礎的国語から発展させ、国語運用能力を身につけ、実践することを目的とする。幅広い作品（アジア文学）からさまざまな表現方法を学び、その効果などを学習する。また、文章の構成把握や要約をした上で、作品を論理的に解釈する力を養う。さらに、ディベートやレポート等を通して聞き手・読み手を意識した説明能力、相手の意見を踏まえ反駁する力、論理的な文章を書く力に磨きをかける。					
授業の進め方・方法		毎回テーマに沿った資料を配布し、それをもとに進める。 講義中、リアクションペーパー・グループワーク等の学生主体で学ぶ時間を設ける。					
注意点		①複数回の演習課題やレポートによって評価を行う。 ②文章を書く課題はできるだけ授業時間内に仕上げること。 ③添削された文章をよく見直し、よりよい文章になおすこと。 ④社会人としてあるべき教養の一つとしての文学や歴史への関心をもって受講すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		講義の目的・概要・到達目標を理解できる。 論理的な文章について理解できる。		
		2週	アジアの文学について①		作品の概要（成立・形式・表記など）を理解し、説明できる。		
		3週	アジアの文学について②		作品の展開を理解し、説明できる。		
		4週	アジアの文学について③		作品を鑑賞し、独自の視野からの見解を述べることができる。		
		5週	アジアの文学について④		作品の概要（成立・形式・表記など）を理解し、的確に説明できる		
		6週	アジアの文学について⑤		作品の展開を理解し、的確に説明できる。		
		7週	アジアの文学について⑥		作品を鑑賞し、独自の視野からの見解を論理的に述べることができる。		
		8週	まとめ レポートワーク		2～7週の授業を振り返り、復習をすることでさらなる理解の定着化をはかる。		
	4thQ	9週	アジアの文学について⑦		作品の概要（成立・形式・表記など）を理解し、説明できる。		
		10週	アジアの文学について⑧		作品の展開を理解し、説明できる。		
		11週	アジアの文学について⑨		作品を鑑賞し、独自の視野からの見解を述べることができる。		
		12週	アジアの文学について⑩		作品の概要（成立・形式・表記など）を理解し、的確に説明できる		
		13週	アジアの文学について⑪		作品の展開を理解し、的確に説明できる。		
		14週	アジアの文学について⑫		作品を鑑賞し、独自の視野からの見解を論理的に述べることができる。		
		15週	まとめ レポートワーク		前期の授業を振り返り、アジアについてさらなる理解の定着化をはかる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	

評価割合							
	レポート	演習課題					合計
総合評価割合	40	60	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	60	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0